

入中1年人権だより

徳島市 八万中学校
1年生 第12号
2022年12月19日
編集・文責 吉成正士

(11号からのつづき)

また、「別れる」については、同じように感じていた人もいたようです。

「3」の質問ですごく悩みました。大切な人や場所と別れるとはどういうことかという質問でした。私はそれを、「また会える」前提だと勝手に思っていました。しかし先生は、ハンセン病問題や拉致問題の横田めぐみさんの話を出して、「二度と会えない」場合もあると分かったとき、とても驚きました。確かに、待っている人はいつまでも待っているとは限りません。…」(2組OA)

「今回の学習で、「別れ」という言葉の意味の重みを知りました。私が別れと聞いて、「パツ」と思いつくのは、いつかまた会うことのできる別れです。でも、「死」という別れ、もう会うことのできない別れもあるということも知り、もう一度考えさせられました。…」(2組KY)

今、ここにある出会い、この教室にある出会いにも、限りがあります。その刻限が、年明けにはやってきます。また新しい出会いはやって来るし、そんなに遠くに離れるわけでもありません。でも、確実に、いま、ここにある出会いは消えてなくなり、二度と戻って来ることはないのです。そう思うと、もっともっと、この一瞬を大切に、と思います。そんな思いで、残された時間を大切にできればと思います。



感情があるから、人間は美しい

■命があることについて、深く考えることができました。今回は班活動をする中で、自分の意見を発表することが増えたので楽しかったです。

私が深く共感できたのが、生きているということは、「心があるということ」という意見でした。感情があるのは、人間のとても美しいところだと思います。うれしい、楽しい、と幸せな自分になれるのも、感情があるから。つらい、悲しい、と気持ちが落ち込むのも、感情があるから。犯罪に手を染めてしまうのも、人を傷つけてしまうのも、感情があるからです。どの感情も、生きているから起こりうるものなんだと思います。でも感情を抑えるということができなくなると、人に迷惑をかけてしまうことになりかねません。そうすると、人の自由を奪うことになってしまうことになるので、感情を抑える術を持ちたいです。

(2組MC)

感情を「抑える」でしょうか。もしかするとそうではなく、感情をコントロールして「上手く出す」ことではないでしょうか。それは表現方法として、絵やイラストにしたり、詩や音楽にしたり、演劇や映画にし

たり、語ったり。

ここまでのみなさんの感想を読んでいて、なぜかすごく感情が込みあげてきて、同時に、ジブリ映画の「かぐや



姫の物語」が浮かんできました。観たことありますか？みなさんがよく知る、竹取物語をモチーフにしたアニメです。そのラストのシーンが浮かぶのです。

みなさんは国語で、竹取物語を勉強しましたね。その一節をふり返ってみます。

そうしているうちに、さらに三年の月日がたった。その春の初めから、かぐや姫は、月を見てはなげき悲しむようになる。秋になってそのなげきがいつそう大きくなるのを見かねた翁が、訳を尋ねると、

「私は、実は月の都の者です。訳あって人間世界に参りましたが、八月十五夜には、月に帰らなければなりません。」と、涙ながらに打ち明けた。

いよいよ中秋の名月の夜、帝は、二千人の兵士を遣わして翁の家を守るようお命じになった。しかし、月の都の人々に対しては、兵士たちも全く無力であった。かぐや姫は、翁には着ていた衣を、帝には天人の持参した不死の薬を、それぞれ手紙を添えて残し、人々の悲しみを後に天に昇っていつてしまった。

このお話の、天に昇るシーンです。

かぐや姫はこの星で、この里山で、この都で、すすくと、大切に慈しみ育てられました。鳥や虫や草花。川のせせらぎ。おじいさん、おばあさんからの愛情。友との友情。その別れに、思い出との別れに、なげき悲しみます。

別れの瞬間、月の都の女官はかぐや姫に言います。「さあ参りましょう。清らかな月の都にお戻りになれば、そのように心がざわめくこともなく、この地の穢れもぬぐい去れましょう」

「穢れ」という言葉にかぐや姫の心が大きく揺らぎます。そして天の羽衣を着せられそうになった刹那、かぐや姫は叫ぶのです。

「穢れてなんかいないわ。喜びも、悲しみも、この地に生きるものはみんな彩りに満ちて、鳥、虫、けもの、草、木、花、人の情けを——」

そう言ったところで羽衣をかけられ、言葉はここで途絶えます。かぐや姫の記憶も、感情も、消去されてしまいます。その頬に一筋の涙がつたいます。

東日本大震災が起きたとき、大切な人と二度と会えない別れを味わった人がたくさんいました。それまで当たり前にあった懐かしい風景が、消えてなくなった

場所もありました。それでも多くの人が、その痕跡を求めてさまよいました。がれきとなった物を拾い集めては、遺していったのです。

そのなかの一つが、写真でした。場合によっては、津波に流され、すべて手元から消えてしまった人もいたそうです。それをボランティアが一枚一枚拾い集め、きれいな水で泥を洗い流し、乾かし、保管していったのです。被災した人はたくさんの写真の中から自分や知り合い、家族、きょうだい、父母、我が子の姿を見つけます。そして思い出とともに写真を胸に握りしめ、泣き崩れるのです。

人の感情は、ときに厄介なものかもしれません。でもそれがあっての人間なのだと思います。



AI（人工知能）が発達して、これからどんな世の中になっていくのか分かりません。人間らしい感情も再現されるのかもしれませんが。でも少なくとも言えるのは、感情をなくしてしまったら、それはもう人間ではないということです。記憶も感情も、大切に残されて、人間なのだと思います。

「生きる意味」これからも考えていきたい

■第3回学年全体人権学習で、共感できる言葉がいくつかありました。

一つは、「差別は日常は表に出てこないのでする必要性を感じない。しかし、差別や偏見は非日常に表れる。する必要性を感じないのでしないのではなくて、日常に落とし込んですることが大切」ということです。差別について考えてみると、コロナ差別や部落差別、被災地差別など、非日常のときに起きる差別が多かったです。日常的に人権意識を持つことが大切だと思いました。

もう一つは、ハンセン病問題の映画「あん」の「どら焼きの命はあん(中身)でしょ」「あん(中身)は自分でつけないと」です。どんな形の人生でも、その人生をどう生きるか、どう輝かせるかは自分自身だからです。また、この映画の主人公の徳江さんの「私たちは、私たちに、生きる意味があるのよ」は、本当に考えさせられる言葉だと思います。その意味は自分で見つけるもので、私はこれからも考えていきたいです。次回の題材が楽しみです。(5組FH)

もし、自分が当時のハンセン病患者だったら。そしてもし、家族と引き離され、療養所に連れて行かれたら。これまで生まれ育った懐かしい風景に二度と戻れないとしたら。友にも会えない、父母にも会えない、きょうだいにも会えないとしたら。思い描いていた夢を叶えるどころか、囚われた鳥かごの鳥のようになったとしたら…。

もう一人の主人公である、中学生のワカナちゃんとふれあうことによるこびを感じていた徳江さん。なぜなら、徳江さんの夢は学校の先生になることだったか

らです。でも、その夢は叶えられるはずありませんでした。そんな人生もあります。

人は、思い通りに行く人生の方が少ないのかもしれませんが。でもそれが不幸せかという、それは周りが決めることではないのだと思います。幸せか不幸せかを決めるのはその人自身であって、周りが決めつけるものではないのだと思います。「不幸せ」という哀れみが、人を見下すことにつながるのだと思います。一人の人間として尊敬することです。映画「あん」、観てください。

僕は誰かの支えになる

■今日の防災学習の「二つのふるさと」で思ったことは、「1」では、東日本大震災なみの大地震が徳島にも来るかもしれません。それにより自分たちも同じ体験をすることになります。マグニチュード9.0の地震が南海トラフで、その地震より大きい地震が来るかもしれません。ニュースで空港に津波が押し寄せているところを見て、とても怖いと思いました。徳島県民でもこんなに怖いのに、東北の人たちの方が一番怖いと思いました。

「2」では、恵子さんは姉と一緒に住むのもいいけど、姉が卒業すると一人になってしまうから、家族と一緒に住んだ方がいいと思います。故郷だからといって高校を決めなくてもいいと思いました。僕は郡山の学校に入って、「どっちも大事な故郷だよ」という言葉が心に響きました。

「3」では、「別れる」というのは「失う」ということです。もし友達でも別れたりすると、悲しくなったり、遊ぶ機会が減ります。なので別れるというのは失うことだと思いました。

「4」では、「生きる」とは友達や家族と話したり、遊んだり、助け合うものだと思います。しかしそのころ福島県ではフクシマ差別が起きました。差別は日常には出てこず、非日常に出てきます。だから日常から考えないといけません。でも世界では生きてくても生きられない人もいます。なので、僕は誰かの支えになるために生きたいです。(5組TY)

今の自分があるのは、当たり前ではないのだと思います。家族や友達にしても、今暮らしている環境にしても。失えば誰しも気づくのですが、失ってからでは遅いものもあります。

伝えたい想いにしてもそうです。失えば、伝えようもありません。だから、当たり前を当たり前と思わず、今できる精一杯を尽くして、毎日を過ごすことです。できてますか。感謝の言葉、伝えられていますか。後悔しないために。こうした学習は、そのことを思い起こさせてくれます。当たり前を当たり前と思わず、誰にも「ありがとう」を伝えられる自分になることです。そんな人間をめざすことです。



(13号につづく)